

令和5年度第2回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

令和5年10月30日

配 付 資 料

- 令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 【資料1】 令和5年度第1回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要・・ P 2
- 【資料2】 これまでの協議における意見や考え方の整理・・・・・・・・・・ P 4
- 【資料3】 再掲：伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）・ P 6
【北部・南部別】
- 【資料4】 再掲：伊賀地域の中学校卒業生数と県立入学定員の推移・・・・・・・・ P 7
- 【資料5】 再掲：伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて・・・・・・・・ P 8
- 【資料6】 伊賀地域の専門学科と総合学科の学び・・・・・・・・・・ P 9
- 【資料7】 伊賀地域公立中学校卒業生の全日制高校への進学状況・・・・・・・・ P 10
- 【資料8】 伊賀地域県立高校の募集定員の推移（人数）・・・・・・・・・・ P 11
- 【資料9】 各地域の学科別募集定員の割合(県立私立全日制)・・・・・・・・・・ P 12
- 【資料10】 伊賀地域から主な県立高校進学先への通学費および所要時間等 P 13
①伊賀地域県立高校 ②他地域を含む県立高校
- 【資料11】 伊賀地域の5校それぞれが学級減となる場合の影響・・・・・・・・ P 17

令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員

区 分	所 属 等	氏 名	
1 学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究所 准教授	か とう たか や 加 藤 貴 也	会長 継続
2	上野都市ガス株式会社 取締役保安工務部長	にし がき ひろ なお 西 垣 浩 尚	継続
3 有識者 (4名)	中外医薬生産株式会社 管理本部マネージャー	かじ もと けん た ろう 梶 本 健 太 郎	継続
4	株式会社アサネットワーク 代表	い しゅう もと ゆき 伊 集 基 之	継続
5	オキツモ株式会社 経営管理部総務課長	か とう こう し 加 藤 幸 司	R5新
6	伊賀市PTA連合会 顧問 (伊賀市立城東中学校PTA)	きよ す たか ひろ 清 須 貴 博	継続
7	名張市PTA連合会 顧問 (名張市立北中学校PTA)	きた がわ しょう じ 北 川 昌 司	継続
8 PTA関係者 (5名)	伊賀地区県立学校PTA協議会 会長 (名張青峰高等学校PTA会長)	さか もと のぶ ひと 坂 本 信 人	R5新
9	伊賀市内県立学校PTA 代表 (上野高等学校PTA会長)	にし だ けん いち 西 田 賢 一	R5新
10	名張市内県立学校PTA 代表 (名張高等学校PTA会長)	あん どう み ほ穂 安 藤 美 穂	継続
11 市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	たに ぐち しゅう いち 谷 口 修 一	継続
12	名張市教育委員会 教育長	にし やま よし かず 西 山 嘉 一	継続
13 小中学校長代表 (2名)	伊賀市小中学校長会 代表 (伊賀市立崇広中学校 校長)	ふた い ひで お夫 二 井 英 夫	R5新
14	名張市小中学校長会 代表 (名張市立赤目中学校 校長)	やま もと かず ひろ 山 本 和 弘	R5新
15 教員代表 (2名)	小中学校教員 代表 (名張市立比奈知小学校 教諭)	やま ぐち てつ や 山 口 徹 也	R5新
16	高等学校教員 代表 (名張青峰高等学校 教諭)	ふじ たか てる や 藤 高 照 也	R5新
17 県立学校長代表 (3名)	名張高等学校 校長	ほり まさ ひろ 堀 昌 弘	副会長 継続
18	あけぼの学園高等学校 校長	つ げ みつ じ 柘 植 三 治	R5新
19	名張青峰高等学校 校長	みず もり さと し 水 守 智 士	R5新

計19名

令和5年度第1回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和5年7月25日（火）19時00分から21時25分まで
- 2 場所 三重県伊賀庁舎 大会議室
- 3 概要

地域の少子化のさらなる進行により、令和4年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する15年先には、伊賀地域における1学年の総学級数が現在の25学級規模から12～14学級規模となることが見込まれる中、当協議会の「令和元・2年度の協議のまとめ」や令和3年度と4年度の協議をふまえ、当地域における県立高校の学びと配置のあり方について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

《県立高校の学びと配置のあり方について》

- 多様な選択肢をできるかぎり地元で提供するという意味では、今ある5校を維持することが望ましい。地域の学校を活性化させて、伊賀地域の子どもたちが、他の地域に出て行かなくても自分の希望に応じて学べる環境を整えられるようにしたい。
- これまでも当地域への流入を増やしたり流出を防いだりするために、各学校が魅力ある学校づくりを行ってきたが、それでも流出しているのが現状だ。15年先には、現在の1学年25学級規模から12～14学級規模になる中で、5校のままであれば、各学校とも2～3学級ずつ減らさなければならない。そうすると、例えば上野高校は6学級から3学級になり、あけぼの学園高校はなくなることになる。この地域の子どもたちのニーズによりの確に伝えるには、どのくらいの学級規模の高校が望ましいのかを議論すべきだ。
- 鳥羽高校や志摩高校、南伊勢高校は、令和6年度の入学定員が1学級となるが、1学級でも活性化できるのか。
 - ⇒（事務局）伊勢志摩地域では、協議会を令和4年度に6回開催し、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、令和6年度の生徒減については、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましいとする方向性がとりまとめられ、これをふまえて令和6年度の入学定員を策定した。1学級規模でも充実した学びを実現してほしいという協議会や地域の要望をふまえ、各校では可能な限りの活性化に取り組んでいる。
- 学校が小規模化すると、部活動の維持は難しくなる。例えば合同チームで県の大会に出場したとしても、競技によっては東海大会や全国大会への出場権を得ることはできない。また、教員数も減るため、芸術や家庭など授業時間数の少ない教科では、専門の教員を常勤で配置できなくなる。
- 伊賀南部から津方面への多数の流出者をいかに減らすか、あるいは亀山方面から伊賀北部への流入者数をどう増やすかによって、再編や統合の方向性も影響を受けるのではないか。
- 他地域への流出は、高校と地元小中学校の連携だけでは解決しない。伊賀地域の高校のあり方については、北部と南部に分けるのではなく、地域全体で考えるべきである。

- 子どもの数の減少と、他地域への流出者数が多いという伊賀地域の大きな2つの課題をふまえると、学びの選択肢を維持するのは統合なしでは難しい。
- 外国につながるのある子どもや家庭環境が厳しい子ども、集団の中では授業を受けることが難しい子どもが、進学をあきらめてしまうことだけは避けなければならない。
- 統合しても校舎制にするとか、統合する学校の学びは他の学校で引き継ぐなど、具体的な選択肢を事務局が複数出したうえで、手遅れになる前に十分議論を尽くすべきである。

《高校の特色化・魅力化と情報発信等について》

- 令和4年度は伊賀地域では入学者数に欠員がなかったが、令和5年度はあけぼの学園高校と名張高校で欠員が生じた要因について、どのように分析しているか。
⇒（事務局）全日制高校の募集定員総数については、地域ごとに算出する全日制高校への入学見込みを考慮して募集定員を策定している。伊賀地域の県立高校全体では、これまではその見込み人数に近い入学者数を保っていたが、英心高校桔梗が丘校をはじめとする通信制高校への進学者の増加などにより、欠員が生じたと捉えている。
- 英心高校桔梗が丘校の入学者数が増えているのは、子どもたちのニーズを満たしているからである。志願者が増えている学校を活性化のヒントにすべきだ。
- 他地域から伊賀地域への流入者数を増やすための工夫は、地域の高校の魅力化にもつながる。
- 不登校を経験した生徒にとって、少人数で丁寧なサポートをしてもらえる通信制高校は魅力である。一方で、全日制高校でこのような指導を実現するためには、地元企業や地域の方の力を活用していく必要がある。
- 消極的な方向ではなく、未来から発想するようなアイデアで活性化を考えたい。例えば、地域におけるメタバースでの学校連携の枠組みを構築し、名張高校の教室にいながら上野高校の学びが体験できるなど、双方向の学びができれば、通学手段や費用、教員数についての課題も解決するのではないか。
- 伊賀地域の高校がまとまって授業体験や説明会などを行えば、地元の高校の魅力をより感じられるのではないか。
- 伊賀地域の高校もそれぞれ特色があるので、部活動も含めて、あの学校に行ったらこんなことをやりたい、こんな学びをしてみたいなどの思いを、小学校段階から抱かせるような仕掛けが大切である。
- 自治体の通学費の補助制度だけではなく、伊賀鉄道やJRなど公共交通機関の利便性を高める取組についても情報提供してほしい。
- 協議会で出された意見は、関係する自治体などに伝えてほしい。

これまでの協議における意見や考え方の整理

令和元年度から4年度までの協議をまとめたもの（令和5年度第1回協議会資料9）に、令和5年度第1回協議会での意見を加えました。下記の意見や考え方については、今後もさらに協議を重ねながら、15年先を見すえた当地域の高等学校の学びと配置のあり方として整理し、まとめていきます。

また、令和10年度までに想定される段階的な学級減への具体的な対応についての協議も進めていくこととします。

1 子どもたちに育みたい資質・能力について

- ・自ら課題を見つけて解決する力
- ・課題の解決に向けて協働する力
- ・失敗を恐れず挑戦する力
- ・自立する力と共生する力
- ・コミュニケーション能力
- ・情報を活用し、伝える力
- ・地域社会への関心

2 多様な子どもたちの状況と学習環境への対応について

- ・地域外へ進学する生徒が一定数あることから、地域内で多様なニーズに応えていくことが必要
- ・不登校傾向の子どもたちが増えており、昼間定時制や通信制のニーズが高まっている
- ・日本語を学びながら高校へ通いたい生徒にとって夜間定時制は必要
- ・特別な支援を必要とする子どもたちの中には、特別支援学校高等部ではなく高校で学びたい生徒がいる
- ・英心桔梗が丘校は子どもたちのニーズを一定満たしているが、開校2年目であることから、今後の生徒の進路動向を注視することが必要
- ・全日制・定時制・通信制を別々に考えるのではなく、複数の機能を併せ持った学校を考える視点も必要
- ・全日制高校において、少人数で丁寧なサポートを実現するためには、地元企業や地域の方の力を活用することが必要

3 再編を検討するうえで大切にしたいこと

- ・高校の特色化・魅力化とその情報発信により他地域への流出抑制につなげる
- ・多様な選択肢を提供するために、できるかぎり5校を維持する視点が大切
- ・数多くの選択肢を維持することは大切であるが、中学校卒業生数が減少する中で、学校運営上の課題やデメリットも明らかにしたうえで検討を進めることが必要
- ・できる限り地域の子どもたちの学びを保障できるよう、効果的・効率的な学校運営を考えることが必要
- ・役割や機能が近い学校をできるだけ集約させ、スケールメリットを生かして子どもたちに選択肢のある学びを提供していくことが必要
- ・子どもの数の減少と、他地域への流出が多いことをふまえると、統合なしでは学びの選択肢を維持するのは難しい
- ・小規模校だからこそ通える生徒への配慮が必要
- ・それぞれの学校の学びや役割をどのように引き継ぐかが大切
- ・消極的な方向ではなく、未来から発想するようなアイデアで活性化を考えることも大切
- ・北部と南部に分けるのではなく、地域全体で考えることが必要

4 交通網に係る課題について

- ・学びの選択肢の確保に加え、それを選択できる交通手段の整備が必要
- ・通学に係る経済的負担も高校を選択する上で重要な要素である
- ・地元自治体を巻き込んだ議論が必要
- ・自治体の通学費の補助制度や各公共交通機関の取組について周知が必要

5 今後の協議に向けて

- ・伊賀地域5校の特色と活性化・魅力化の状況を知りたい
- ・事務局から学級減への対応の具体案を提示してほしい
- ・子どもたちのニーズを把握するため、アンケート調査を実施してほしい
- ・県内外の先行事例を参考にしたい

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)【北部・南部別】

令和5年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3
卒業生数	747	708	738	718	731	681	641	630	610	594	574	552	515
前年度対比		-39	30	-20	13	-50	-40	-11	-20	-16	-20	-22	-37
R5.3対比					13	-37	-77	-88	-108	-124	-144	-166	-203
①公立小中在籍者数	(675)	(662)	(676)	(659)	661	609	599	631	612	596	577	554	517
②私立小中在籍者数	(72)	(46)	(62)	(59)	57	51	23						
卒業生数	702	721	717	703	690	756	699	709	695	670	627	618	622
前年度対比		19	-4	-14	-13	66	-57	10	-14	-25	-43	-9	4
R5.3対比					-13	53	-4	6	-8	-33	-76	-85	-81
③公立小中在籍者数					688	754	699	743	727	702	658	647	654
卒業生数	1,449	1,429	1,455	1,421	1,421	1,437	1,340	1,339	1,305	1,264	1,201	1,170	1,137
前年度対比		-20	26	-34	0	16	-97	-1	-34	-41	-63	-31	-33
R5.3対比					0	16	-81	-82	-116	-157	-220	-251	-284
①②③小中在籍者数					1,406	1,414	1,321	1,374	1,339	1,298	1,235	1,201	1,171

伊賀地域県立高校の1学年学級数	27	27	27	26	26								
() 内は入学定員の計	(1,080)	(1,040)	(1,040)	(1,000)	(1,000)								

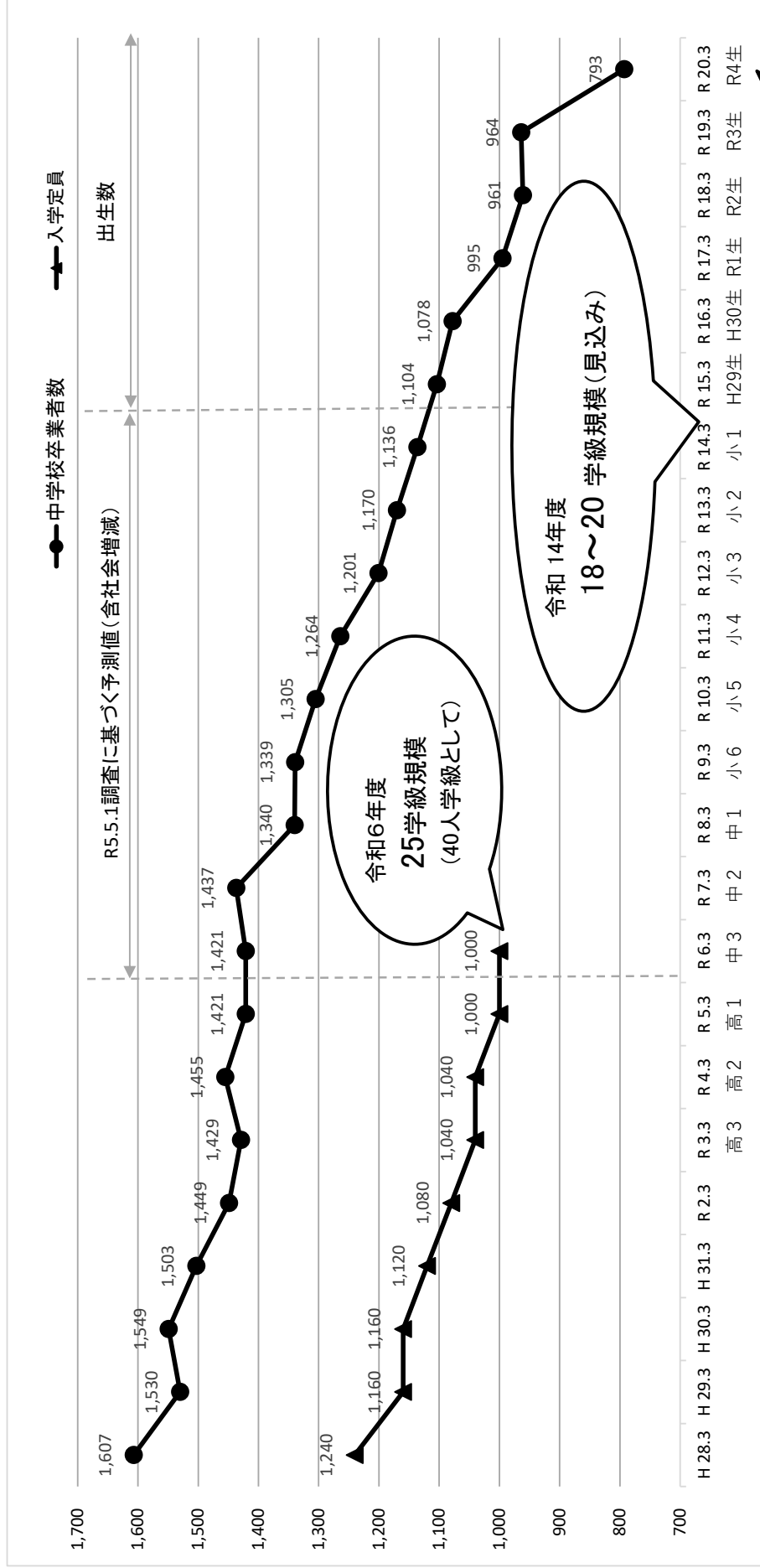
※ 伊賀北部＝伊賀市から旧青山町を除く。

※ 伊賀南部＝名張市に旧青山町を加える。

(参考)

	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3
卒業生数	16,489	15,777	16,244	16,055	15,893	15,669	15,463	15,253	14,747	14,408	14,045	14,001	13,487
前年度対比		-712	467	-189	-162	-224	-206	-210	-506	-339	-363	-44	-514
R5.3対比					-162	-386	-592	-802	-1,308	-1,647	-2,010	-2,054	-2,568
小中学校在籍者数					15,871	15,645	15,454	15,379	14,862	14,532	14,156	14,133	13,578

伊賀地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移



伊賀地域の出生数

年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度	H46年度	H47年度	H48年度	H49年度	H50年度	
現小1	643	582	569	533	534	427	437	527	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434
伊賀市	584	522	509	462	427	437	527	437	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434
名張市	1,227	1,104	1,078	995	961	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964
計	1,227	1,104	1,078	995	961	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964	964

伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて

(※R5第1回協議会 資料14 再掲)

資料5

学校名	大学科	募集定員(R6)	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	
県立 上野高校	普通科	240								
県立 あげぼの学園高校	総合学科	80								
県立 伊賀白鳳高校	専門学科	240	1000							
県立 名張高校	総合学科	200								
県立 名張青峰高校	普通科	240								
私立 桜丘高校	普通科	155								
伊賀地域全日制課程										
			製菓調理 美容服飾 情報教養 健康福祉 4系列/80人	電子機械(35) ・ロボット ・電気工学 建築デザイン(35) ・建築・インテリア ・デザイン 生物資源(35) ・生物資源科 健康スポーツ系列 ・健康スポーツ専攻	フードシステム(35) ・フードサイエンス ・パティシエ 表現デザイン系列 ・美術専攻 ・音楽専攻 ・ファッション専攻 ・映像専攻	経営(30) ・経営科 ヒューマンサービス(35) ・介護福祉 ・生活福祉	4系列9専攻/200人 7学科11コース/240人 普通科系/480人			
			普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	文理探究	
			普通科(155)							

- 全日制
- ※私立 愛農学園農業高校 農業科 25人
- 定時制課程
- 県立 上野高校 普通科 40人
- 県立 名張高校 普通科 40人
- 通信制課程
- 私立 英心高校 桔梗が丘 普通科:探求コース 20人
- ※私立 神村学園高等部伊賀 普通科:選択登校型、全日型(両型合わせた年間募集定員 70人) 70人
- 高等専門学校
- 私立 近畿大学工業高等専門学校 機械システム、電気電子、制御情報、都市環境(3年次よりコース選択) 160人 (※県外扱い)

伊賀地域の専門学科と総合学科の学び

資料6

専門学科の学び

総合学科の学び

【伊賀白鳳】		
学科	学科名	コース名
工業	機械	機械
		ロボット
	電子機械	電気工学
		建築・インテリア
デザイン	デザイン	
農業	生物資源	生物資源
	フードシステム	フードサイエンス
		パティシエ
商業	経営	経営
福祉	ヒューマンサービス	生活福祉
		介護福祉

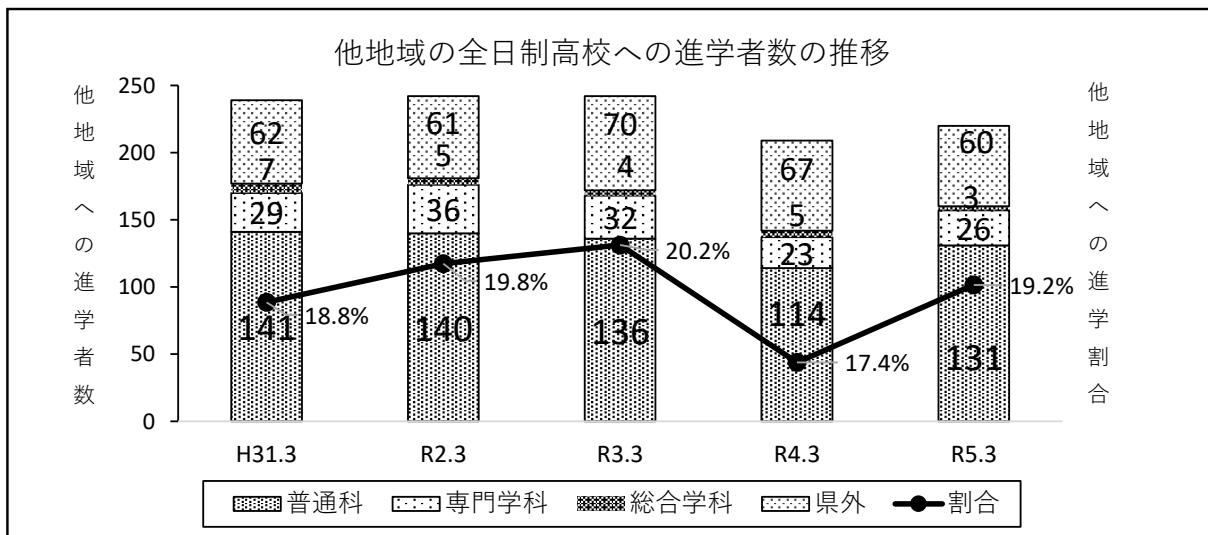
【あけぼの学園】		【名張】	
系列名		系列名	専攻
		表現デザイン	美術
製菓調理			
情報教養		総合ビジネス	ビジネス 情報処理
健康福祉		健康スポーツ	健康スポーツ
美容服飾			
		表現デザイン	ファッション 音楽 映像
		人文アドバンス	人文 看護医療

伊賀地域公立中学校卒業者の全日制高校への進学状況

資料 7

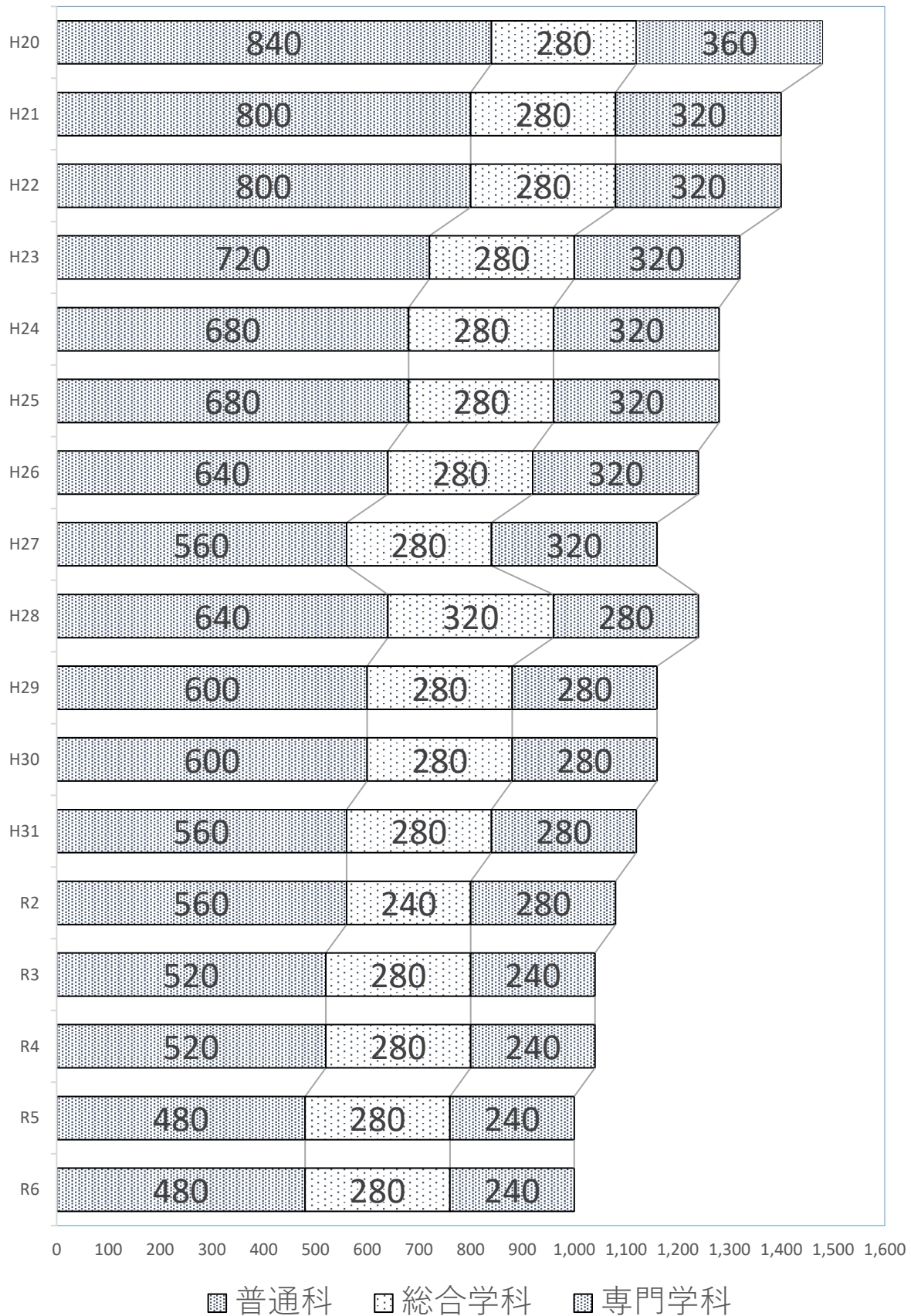
単位：人

		H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3		
公立中学校卒業生数		1,417	1,377	1,383	1,393	1,362		
全日制進学者数		1,269	1,225	1,198	1,201	1,143		
伊賀地域内		1,030	983	956	992	923		
県内他地域	普通科	津	52	48	40	28	37	
		津西	30	27	30	26	26	
		津東	10	4	4	3	9	
		四日市	3	3	2	2	1	
		白子	4	3	2	2	3	
		亀山	2	6	2	1	3	
		久居	0	3	3	3	1	
		白山	3	6	5	4	3	
		松阪	7	4	4	4	3	
		上記以外県立	5	4	2	3	0	
		私立	鈴鹿	1	1	4	5	11
			高田	9	5	9	8	11
			三重	12	17	19	18	16
			上記以外私立	3	9	10	7	7
	普通科計		141	140	136	114	131	
	専門学科	農業	0	2	1	2	1	
		工業	11	13	12	9	12	
		商業	10	7	4	8	5	
		家庭	4	2	2	2	2	
		福祉	0	0	0	0	0	
その他		4	12	13	2	6		
専門学科計		29	36	32	23	26		
総合学科		7	5	4	5	3		
県内他地域計		177	181	172	142	160		
県外		62	61	70	67	60		
地域外計		239	242	242	209	220		
割合		18.8%	19.8%	20.2%	17.4%	19.2%		



伊賀地域県立高校の募集定員の推移（人数）

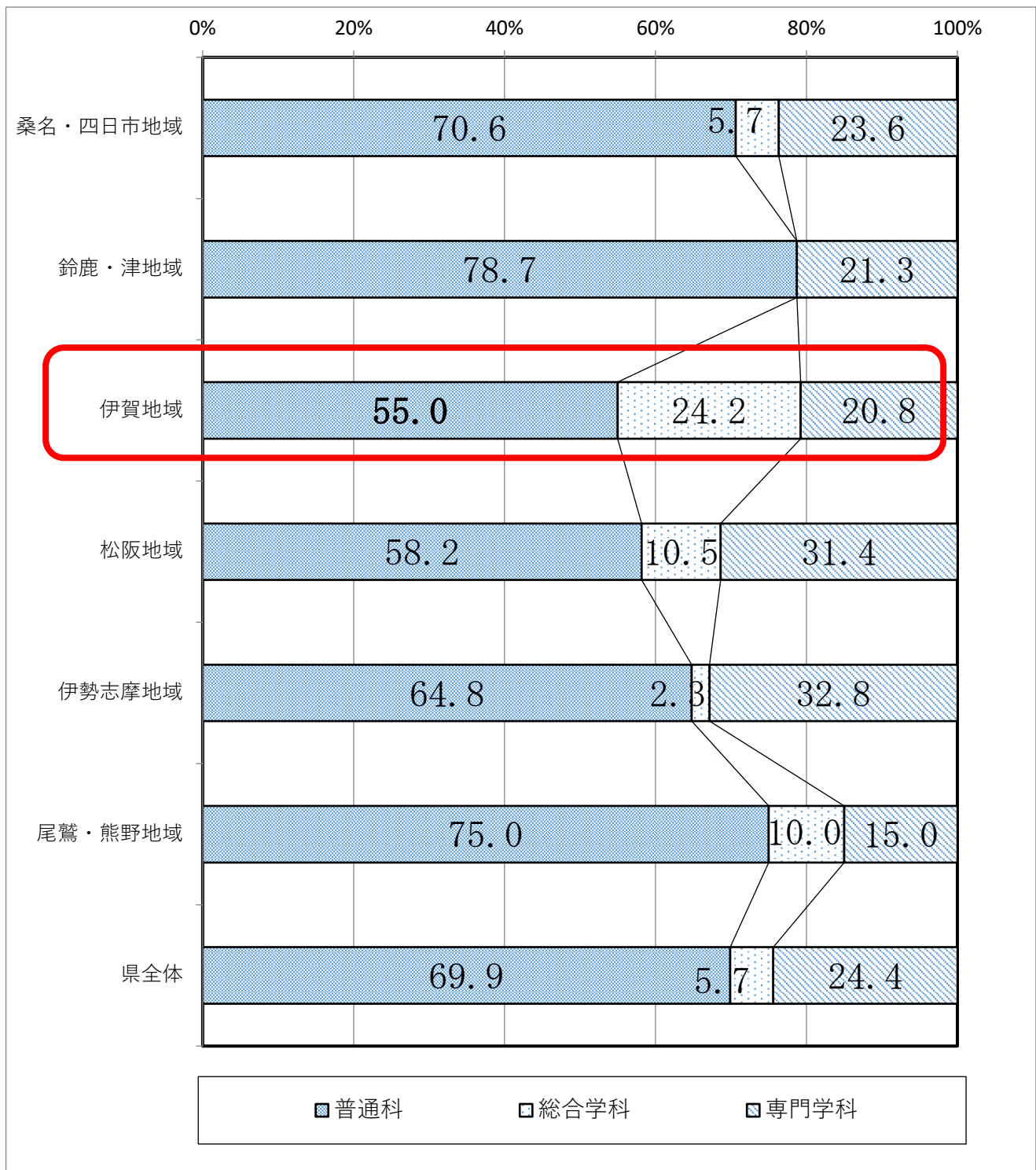
資料 8



各地域の学科別募集定員の割合(県立私立全日制)

資料 9

※ 令和6年度県立および私立高校合計



伊賀地域から主な県立高校進学先への通学費および所要時間等

(1) 伊賀地域県立高校

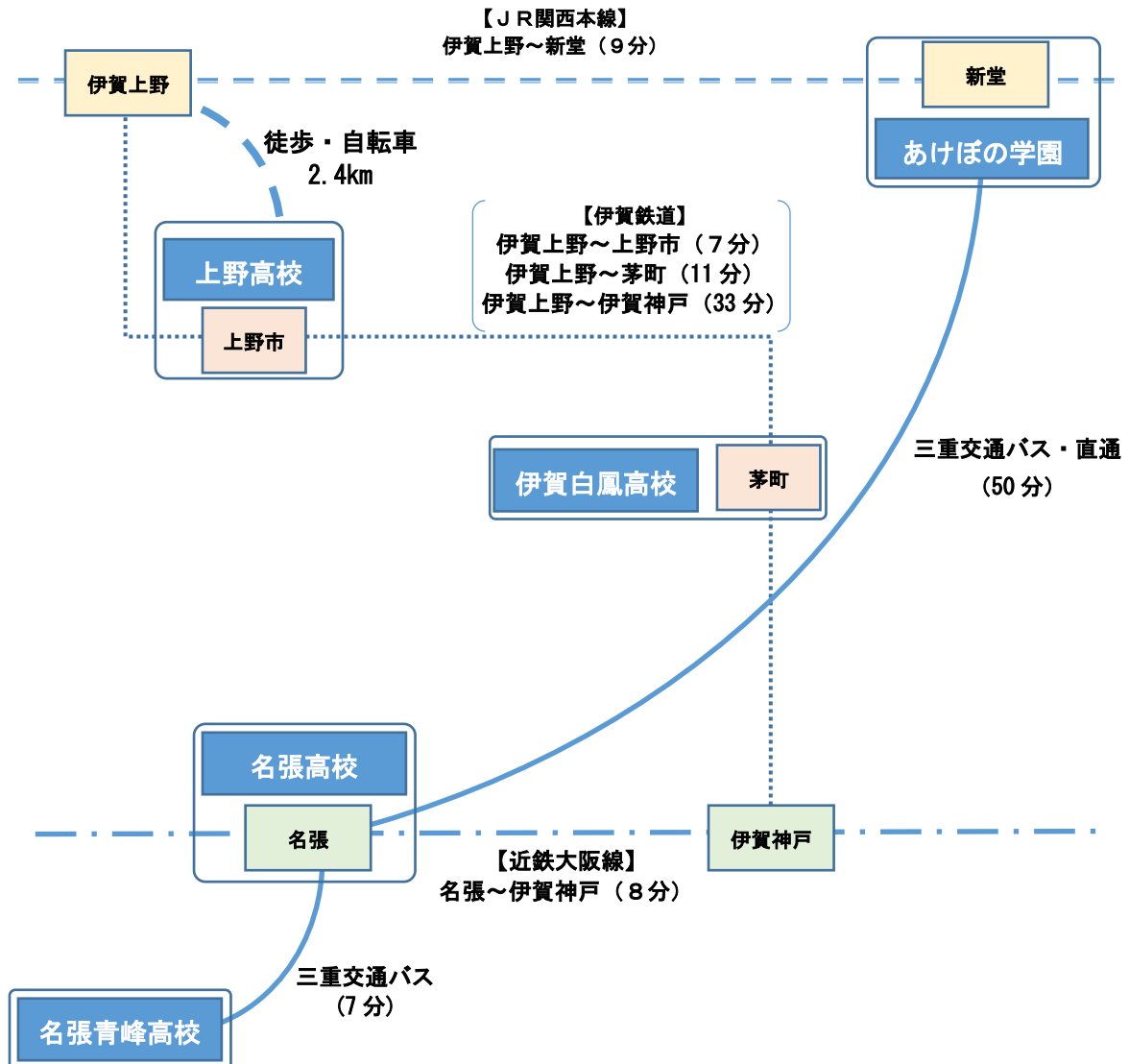
①伊賀上野駅発

伊賀上野駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの通学費
上野	11分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
伊賀白鳳	24分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
あけぼの学園	28分	JR関西本線・徒歩	3,803円
名張	1時間01分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	7,701円
名張青峰	1時間10分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	11,368円

②名張駅発

名張駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの通学費
名張	14分	徒歩	0円
名張青峰	11分	三重交通バス・徒歩	3,667円
伊賀白鳳	48分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
上野	53分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
あけぼの学園	50分	三重交通バス・直通（通学フリー）	13,000円

※伊賀鉄道利用時においては、伊賀市の通学定期券購入費助成を適用（別紙参照）



(2) 他地域を含む県立高校

①伊賀上野駅発

【費用順】

伊賀上野駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの 通学費
上野	11分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
伊賀白鳳	24分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
あけぼの学園	28分	JR関西本線・徒歩	3,803円
亀山	1時間06分	JR関西本線・徒歩	7,438円
名張	1時間01分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	7,701円
松阪	1時間37分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,726円
津	1時間47分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,726円 ○
津東	1時間53分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,826円 ○
白子	1時間56分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	9,023円 ○
四日市	2時間10分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	9,518円 ○
名張青峰	1時間10分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	11,368円
津西	1時間55分	伊賀鉄道・JR関西本線・三重交通バス・徒歩	12,493円 ○
白山	1時間53分	伊賀鉄道・近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	12,998円
久居	1時間40分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	13,961円

【時間順】

伊賀上野駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたりの 通学費
上野	11分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
伊賀白鳳	24分	伊賀鉄道・徒歩	2,124円
あけぼの学園	28分	JR関西本線・徒歩	3,803円
名張	1時間01分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	7,701円
亀山	1時間06分	JR関西本線・徒歩	7,438円
名張青峰	1時間10分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	11,368円
四日市	1時間29分	JR関西本線・徒歩	12,270円 ○
津東	1時間38分	JR関西本線・徒歩	9,990円 ○
松阪	1時間37分	伊賀鉄道・近鉄・徒歩	8,726円
津	1時間39分	JR関西本線・近鉄・徒歩	12,510円 ○
津西	1時間40分	JR関西本線・三重交通バス・徒歩	13,657円 ○
久居	1時間40分	伊賀鉄道・近鉄・三重交通バス・徒歩	13,961円
白子	1時間47分	JR関西本線・近鉄・徒歩	14,670円 ○
白山	1時間53分	伊賀鉄道・近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	12,998円

※検索条件 学校到着時間を8時40分
 特急不使用
 通学定期券(3・6・12カ月)を、1カ月に割戻して計算
 伊賀鉄道利用時においては、伊賀市の通学定期券購入費助成を適用(別紙参照)
 費用と時間では複数経路がある場合、安いまたは早い順として調整(○印)

②名張駅発

【費用順】

名張駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたり の通学費
名張	14分	徒歩	0円
名張青峰	11分	三重交通バス・徒歩	3,667円
松阪	1時間09分	近鉄・徒歩	5,527円
津	1時間13分	近鉄・徒歩	5,527円
津東	1時間22分	近鉄・徒歩	5,527円
白子	1時間24分	近鉄・徒歩	5,823円
四日市	1時間39分	近鉄・徒歩	6,220円
伊賀白鳳	48分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
上野	53分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
津西	1時間24分	近鉄・三重交通バス・徒歩	9,193円
白山	1時間07分	近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	9,762円
久居	1時間07分	近鉄・三重交通バス・徒歩	10,762円
あけぼの学園	1時間27分	近鉄・伊賀鉄道・JR関西本線・徒歩	11,504円
亀山	1時間56分	近鉄・JR・徒歩	11,615円

【時間順】

名張駅 ～各高校	所要時間	利用する公共交通機関	1か月あたり の通学費
名張青峰	11分	三重交通バス・徒歩	3,667円
名張	14分	徒歩	0円
伊賀白鳳	48分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
あけぼの学園	50分	三重交通バス・直通（通学フリー）	13,000円
上野	53分	近鉄・伊賀鉄道・徒歩	7,278円
白山	1時間07分	近鉄・津市コミュニティバス・徒歩	9,762円
久居	1時間07分	近鉄・三重交通バス	10,762円
松阪	1時間09分	近鉄・徒歩	5,527円
津	1時間13分	近鉄・徒歩	5,527円
津東	1時間22分	近鉄・徒歩	5,527円
白子	1時間24分	近鉄・徒歩	5,823円
津西	1時間24分	近鉄・三重交通バス・徒歩	9,193円
四日市	1時間39分	近鉄・徒歩	6,220円
亀山	1時間56分	近鉄・JR・徒歩	11,615円

※検索条件

学校到着時間を8時40分

特急不使用

通学定期券（3・6・12カ月）を、1カ月に割戻して計算

伊賀鉄道利用時においては、伊賀市の通学定期券購入費助成を適用（別紙参照）

費用と時間では複数経路がある場合、安いまたは早い順として調整（○印）

令和5年度

い が てつどう つうがくていきけんこうにゆうひ いちぶじょせい
伊賀鉄道の通学定期券購入費の一部助成について

伊賀市は、伊賀鉄道伊賀線の利用促進のため、伊賀鉄道の通学定期券利用者を対象に購入費の $1/2$ を助成します。

【申請受付期間】 2023(令和5)年5月10日(水)から2024(令和6)年3月5日(火)まで

- (注1) 提出は最後にまとめてではなく定期券の写しが用意できた分をその都度、申請（複数回申請）していただけますので、お忘れのないよう早めの申請をお願いします。
- (注2) 3月分の定期を購入するため受付期間内に申請することが出来ない場合のみ例外として3月29日(金)まで受け付けますが、必ず3月5日(火)までに交通政策課へ申し出てください。

1. 助成の対象となる方	伊賀鉄道の <u>通学定期券</u> を購入された方 ※伊賀市外の方も対象です。 ※申請する人は原則、通学生の保護者または本人
2. 助成の対象となる通学定期券	通学定期券の有効期間が 2023(令和5)年4月1日から2024(令和6)年3月31日の 全部または一部を含んでいるもの
3. 助成金額	定期券購入費のうち上記の有効期間分の 2分の1 の額を助成(100円未満は切り捨て) ※購入費のうち伊賀鉄道の区間分に限ります。 ※上記の期間以外の有効期間を含む定期券は、有効期間分だけを日割り計算します。
4. 申請に必要な書類 右の①～④が全て必要です。	<p>① <u>伊賀鉄道通学定期券購入費助成金交付申請書兼請求書(様式第1号)</u></p> <p>② <u>助成の対象となる通学定期券の写し</u> ※通学定期券の写し以外の書類(領収書や学生証など)は、利用区間や有効期間などの必要な情報が確認できませんので原則不可です。 ※スマートフォンアプリの定期券(電子定期券)の場合は、定期券の画像データを印刷するなどして添付してください。</p> <p>③ <u>申請者の身分証明書の写し</u> (マイナンバーカード、運転免許証、健康保険被保険者証など、公的機関発行のもの) ※身分証明書の住所記載欄が裏面にある場合は、裏面も必ずコピーして添付してください。</p> <p>④ <u>振込を希望する金融機関の口座番号等が確認できるもの</u> ※振込口座は申請人名義のものに限ります。</p>
5. 申請方法	伊賀市役所交通政策課(本庁舎4階)か各支所の窓口に <u>持参</u> して提出 または <u>下の送付先へ郵送</u> (申請受付最終日(3/5)までの消印有効)

《その他の注意事項》 ◆定期券で有効期間が重複している場合は、その重複している期間を除いて助成額を計算します
◆同種の伊賀市の補助金等の交付を受ける場合は、この助成の対象外となります



二次元コード

制度の詳細や
申請書のダウンロードは
←伊賀市のホームページから。

<https://www.city.iga.lg.jp/0000008050.html>



【問い合わせ先】伊賀市交通政策課

☎0595-22-9663

(開庁時間：平日 8:30~17:15)

【申請書送付先】

〒518-8501 伊賀市四十九町 3184

伊賀市役所企画振興部 交通政策課

伊賀地域の5校それぞれが学級減となる場合の影響

伊賀地域の5校それぞれが学級減となる場合、現状と比較して、5つの学校に共通する影響や、学校個別の影響は次の通りです。

1 学校に共通する影響【資料参照】

①教員数が減少する（3年間で約5～7人の減）

- ・多様なコースや選択科目の開設が難しくなる
- ・芸術や家庭などの専門の教員が常駐できない教科が増える
- ・部活動顧問の配置が困難となり設置する部活動数が減る
- ・部活動において専門性の高い指導者の確保が困難となる

②生徒数が減少する（1学級40人、3学年120人の減）

- ・体育祭や文化祭などの学校行事の規模が小さくなる
- ・部活動あたりの参加人数が少なくなる可能性がある

2 学校個別の影響

①学科や系列の見直しが必要となる場合がある

- ・学校では、学びの選択肢が減少する
- ・他校で同様の学びがない場合は、地域全体から特定の学びがなくなる

【参考】伊賀地域の5校それぞれが学級減となった場合の学校個別の影響

	学校個別の影響	普通科系、総合学科、専門学科の定員割合 R6 (55.0% : 24.2% : 20.8%)
上野	<ul style="list-style-type: none"> ・5学級になるため進学指導体制に影響 ・普通科改革（国事業）の計画に影響 	53.4% : 25.1% : 21.5%
伊賀白鳳	<ul style="list-style-type: none"> ・5学級における学科改編が必要 ・現在6学級規模を7学級展開 ・5学級での科とコースの整理が必要 	57.0% : 25.1% : 17.9%
あけぼの	<ul style="list-style-type: none"> ・1学級における系列の改編が必要 ・現在の4系列を2系列程度に改編 	57.0% : 21.5% : 21.5%
名張	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い教員の確保が困難 ・現在の9専攻の見直しの検討が必要 	57.0% : 21.5% : 21.5%
名張青峰	<ul style="list-style-type: none"> ・5学級になるため進学指導体制に影響 	53.4% : 25.1% : 21.5%